

2006年2月10日

T-Engineフォーラム

ユビキタスMD研究・協議会

サミット株式会社

－「ユビキタス食品情報基盤システム実証実験」説明会－

2006年2月16日 「サミットストア 三鷹市役所前店」にて

T-Engineフォーラム（本部：東京都品川区 代表 坂村 健）では、平成17年度農林水産省ユビキタス食の安全・安心システム開発事業において、最先端のユビキタス情報処理技術を活用して、食品の生産履歴・加工履歴・流通履歴・販売情報と、その食品の個体（現物）の一貫した紐付けをする新しい情報システムの構築によって、食品トレーサビリティの実現や、食品の物流効率化・高信頼化、店舗における食品の販売促進業務、生産段階における生産支援など、汎用的かつ多目的に活用できる先進的なシステムである「食の安全・安心システム」を開発し、食品のトレーサビリティシステムの効率的な普及を推進しております。

今回、T-Engineフォーラム ユビキタスMD研究・協議会及びサミット株式会社（本社：東京都杉並区 代表取締役社長 高田 浩）は、店舗で扱う計量器のユビキタスモデル化により、畜産物、水産物のパック時でのトレーサビリティシステムを図りました。

小売店での計量・包装機とコンピューターシステムを結び、生産から流通までの流れを計量時に情報化し、更に商品を包装する際に、個包装毎に識別コード（UCODE＝ユーコード）を自動的に印字し、消費者の手元までの一貫したトレーサビリティシステムとしての端末として稼動するようになります。

本システムは、都内小売店での試験が今回初めてとなり、消費者にもわかり易い仕組みとして試験結果が期待されるものです。

店舗バックヤードでの精肉、水産でのトレーサビリティへ向けた活用を検証するため、2月16日（木）午前9時30分より、サミット 三鷹市役所前店にて実際の商品での試験を報道関係向けに公開説明会を行いません。

報道関係者におかれましては、開始10分前にはご参集願います。

◆本件に関する問合せ先

・T-Engine フォーラム 担当：伯田

電話：03-5437-2270（YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所内）

URL：<http://www.t-engine.org/>

E-mail：press@www.t-engine.org

・サミット株式会社 広報室

電話： 03-3318-5020

FAX： 03-3318-5469

【説明会会場】前記説明会について、下記にて2月16日(木)9時30分から三鷹市公会堂にて開始。
(同公会堂三階 第7会議室)



サミット 三鷹市役所前店

東京都三鷹市野崎 1-3-10 TEL 0422-70-3310 FAX 0422-49-8671

■会場は、店頭からのご案内します。

【参加団体】

- ・ T-Engineフォーラム ユビキタスMD研究・協議会
- ・ サミット株式会社

(公開説明会当日配布資料)

2006年2月16日

T-Engineフォーラム
ユビキタスMD研究・協議会
サミット株式会社

—「ユビキタス食品情報基盤システム実証実験」説明会—

「サミットストア 三鷹市役所前店」にて

T-Engineフォーラム（本部：東京都品川区 代表 坂村 健）では、平成17年度農林水産省ユビキタス食の安全・安心システム開発事業において、最先端のユビキタス情報処理技術を活用して、食品の生産履歴・加工履歴・流通履歴・販売情報と、その食品の個体（現物）の一貫した紐付けをする新しい情報システムの構築によって、食品トレーサビリティの実現や、食品の物流効率化・高信頼化、店舗における食品の販売促進業務、生産段階における生産支援など、汎用的かつ多目的に活用できる先進的なシステムである「食の安全・安心システム」を開発し、食品のトレーサビリティシステムの効率的な普及を推進しております。

今回、T-Engineフォーラム ユビキタスMD研究・協議会及びサミット株式会社（本社：東京都杉並区 代表取締役社長 高田 浩）は、店舗で扱う計量器のユビキタスモデル化により、畜産物、水産物のパック時でのトレーサビリティシステムを図りました。

これは、計量・包装機とコンピューターシステムを結び、生産から流通までの流れを計量時に情報化し、更に商品を包装する際に、個包装毎に識別コード（UCODE＝ユーコード）を自動的に印字し、消費者の手元までの一貫したトレーサビリティシステムのための端末として、文字通りどこでも、誰でも使える（ユビキタスの語源）という仕組みとしたものです。

従来、店頭に出すまでの作業（原料の受け入れ、仕分けから、カット、計量、包装するという一連の作業）を経てからは、消費者が手にした肉や魚のパックが本当にどのようなものなのかを明らかにするシステムが求められていました。

また、メーカーからの原料情報や、重量など商品の情報を消費者一人一人に対応するよう個包装ごとに整理し、商品ラベルへ自動印字する仕組みもトレーサビリティを行なう上で必要となります。

本開発技術により、上記のようなニーズに応えることで、店舗のバックヤードでの作業状況がオープンになり消費者からの信頼を得ることが可能となります。

また、既存の計量器にシステムを組み込んだことにより、誰でも取組みやすい仕組みになっただけでなく、トレーサビリティに取り組む上で新たな機器の購入を抑えることで導入時のコスト削減や、計量器の印字を活用することでランニングコストの低減が行なえます。

本システムについては、都内小売店において初めての試験であります。牛個体情報を含め計量され或いはパック包装されるまでの技術については、生産から消費までを結ぶトータルなトレーサビリティシステムの有効手段として、今回の試験結果を基に、普及性の高い実用システムへの技術転用が予想されます。

◆本件に関する問合せ先

・T-Engine フォーラム 担当：伯田 誠

電話：03-5437-2270（YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所内）

URL：<http://www.t-engine.org/>

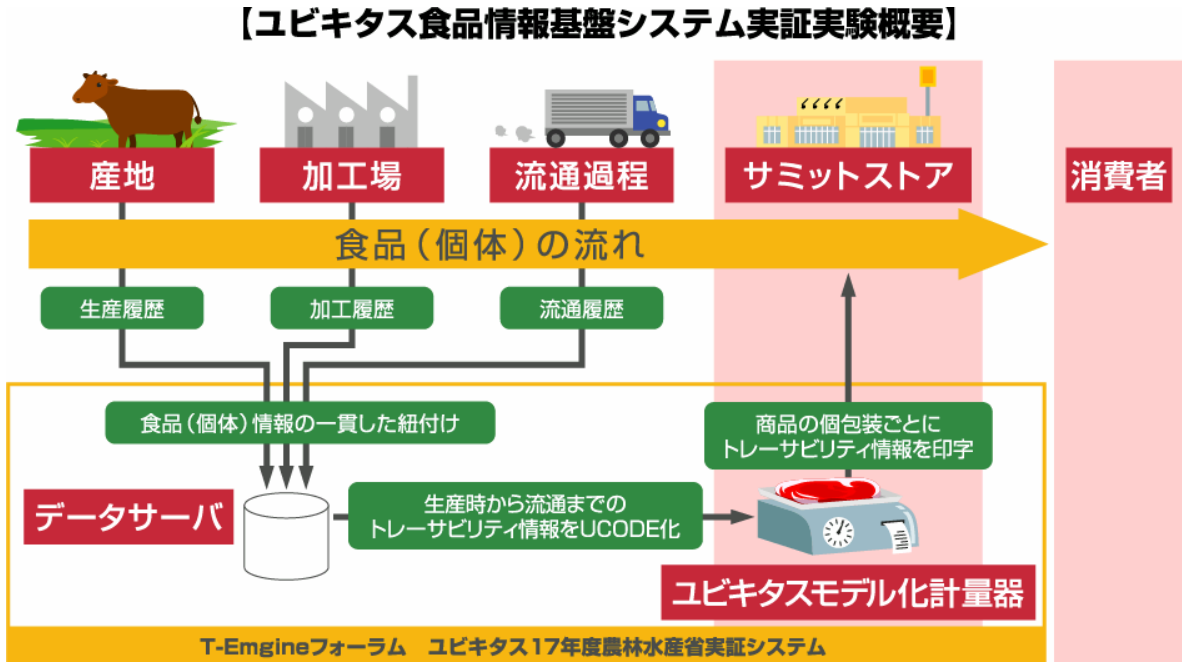
E-mail：press@www.t-engine.org

・サミット株式会社 広報室

電話：03-3318-5020

FAX：03-3318-5469

<説明図>



例えば、同ユビキタス技術によるシステムでは次のような成果が期待できます。

個包装にトレーサビリティ情報が印字されているため、
何らかの危害が発見された食品が流通してしまった場合、
消費者が手許にある商品が該当するかの確認を
消費者自身が自宅に居ながら照会し、安全判定を行なうことが可能です。